
ネコのねがいごと

光太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネコのねがいごと

【Nコード】

N4627E

【作者名】

光太郎

【あらすじ】

ネコ、鳩、鳥、そして人間 それぞれがそれぞれの思いを抱き、自らの道を歩む。 5分企画参加作です

(前書き)

5分企画参加作品です。

オレは鳩。仕事熱心な鳩。

「あとひとつだな」

書類に目を通しながら、上司がため息と一緒に言葉を吐き出す。上司というのは鳥だ。その大きなからだ、長くちばしで、いつだって偉そうに指令をくだす。それが嫌で、この仕事から抜けた仲間はず数知れない。

だが、オレは仕事熱心な鳩。そんなことはどうでもいい。

あとひとつといわれたなら、あとひとつ、寝る間も惜しんでノルマ達成に努めるのみ。

あたしはネコ。ちょっとかわいいそうなネコ。

優太くんをとっても仲良し。ううん、正確には、仲良しだった、ってことになる。

あたしは、優太くんがうんと小さいころから知ってる。

最初は泣いてばかりだったのに、いつのまにか歩けるようになって、気がついたらランドセルを持って、あたしとはちがう時間を過ごすようになった。寂しいけど、それはしょうがない。人間ってそういうものだって、あたしはちゃんとわかってる。

あたしがかわいそうだっていうのは、そんなことじゃない。

だって、あたしはまだ、優太くんといたかった。

一緒に遊んで、一緒に笑って、一緒にあたたかい空気を感じていなかった。

「なんだ、暗い顔して」

鳩があたしの隣に降り立った。あたしは思わず警戒したけど、公園で見る鳩とは、なにかがちよつとちがう。第一、いまのあたしに話しかけてくるっていうのが、もうふつうじゃない。

「あなたは、なに？」

「オレは鳩さ、仕事熱心な鳩。あんたは、いかにもかわいそうってふうだな。望みがあるなら、いってみな」

「いったら、叶えてくれるの？」

「それがオレの仕事なんだ」

見るからに胡散臭かったけど、ほかに相手もないから、あたしは話すことにした。

「優太くんに会いたい。優太くんと一緒にいたい。優太くんは、あたしのせいで、毎日悲しそうにしているから」

鳩は、ガラス玉みたいな目をぱちくりさせて、ふうむ、とうなずいた。

「なるほどね。いいだろう、オレがなんとかしてやる。まかせときな」

ぼくはにんげん。たぶん、世界じゅうでいちばんワルイにんげん。だいたいな友だちに、ひどいことをいった。

ずっといつしよにいて、ずっとなかよくしてきたのに、あの日ぼくは、とてもひどいことをいった。

ダイキライっていった。

シンジャエっていつちやっただ。

リイが、ぼくのださいなものを、ぐしゃぐしゃにしちやっただから。母の日のプレゼントに、学校でかいたママのかお。すごくじょうずにかけて、すごいね、じょうずね、ってママがいつてくれるのが、

たのしみだったのに。

そしたら、リイは、ほんとうにしんじやった。

車にはねられたんだってママは思ったけど、ぼくは知ってる。

ぼくがシンジャエっていったから、しんじやったんだ。

「リイにあいたいな」

ぼくは石ころをけとばした。

学校からのかえり道だって、おうちについたらリイとおひるねしようかな、それともいっしょにあそぼうかなって、そんなことを考えてたらつまらなくなっちゃったのに。見えるものがぜんぶ笑ってるみたいで、きらきらしてて、なんだって楽しかったのに。

でも、いまは、こんなにつまんない。

リイにあいたい。

あいたいよ、リイ。

「いたい」

しんぞうのところがいたい。かなしくて、いたい。でも、リイはもつといたかったはずだ。

いたいところをつかんで、そのまま立ちどまる。

そのとき、信じられないものを、みつけてしまった。

大きな道のむこうがわに、小さな黒いネコ。

そんなハズない。

そんなハズない。

わかっているのに、もう、そこしか見えなくなった。

ママといつも行く、小さなスーパー。リイはお店のなかには入れないから、いつも入り口のとなりでちょこんとすわって待っていた。ぼくが出てくると、ニヤアって鳴いて、ぼくにとびついてきた。

ネコじゃないみたいに甘えんぼで、やさしくて、かわいいリイ。

だいすきなリイ。

まちがない、ぼくが見まちがえたりなんてするわけない。

リイだ。

リイがいる。

入り口のとりにすわって、こっちを見ている。

ここから見ると、リイはほんとうに小さくて、もしかしたらしんだから小さくなっちゃったのかもしれない。ぼくはどきどきした。ぼくとリイのあいだを、車が行ったりきたりする。それでもぼくは、リイから目をそらさなかった。

あいにきてくれたんだ。

むねのあたりが、ぎゅうってなった。うれしいのか、かなしいのか、わかんなくなった。なんだか、はながツンとして、泣きそうになる。

「ニヤア」

たしかに、聞こえた。

リイが鳴いた。

まちがいなく、リイの声だ。

ぼくは、たまらなくなつて、そのまま道へとびだした。

私は鳥。動物たちの願いを叶える鳥。

といつても、いつてしまえば中間管理職だ。部下にノルマを催促し、上司からはノルマを催促される、実につまらない日々。胃薬はもはや常備薬だ。

しかし、私なりに、この仕事を気に入っている。

動物たちの喜ぶ顔を見るのは、なかなか気分がいい。

「ノルマ達成しましたよ」

部下の鳩がやってきた。脇には小さなネコと、小さな人間。

なぜ人間を連れてくるのかと、疑問を覚える。しかし、そのネコには見覚えがあった。私は、すべてを理解した。

「なるほど、君か。君の願いはなかなか興味深かった。死した身で

ありながら、大好きな人間に会いたい、一緒にいたい……君の願いを叶えるにはどうしたものかと思ったが　ふむ、私の部下はなかなか上手にことを運んだようだ。さあ、これからはずっといいんだよ。思う存分、楽しむといい」

鳩が満足げに胸を張る。なぜだが、人間は泣いている。

ネコは、満面の笑みを私に向けた。

(後書き)

読んでいただき、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4627e/>

ネコのねがいごと

2010年10月8日15時19分発行